

平成27年度地域教育政策推進事業 「JOMON JAPAN」発見・体験ツアーを開催しました

平成27年10月24日（土）、渡島管内の小・中学生、保護者及び教職員48名が参加し、大船遺跡と函館市縄文文化交流センターにおいて、身近にある縄文文化について体験を通して学びました。

● 車内学習

縄文文化ってどんなもの？まずは送迎バスの車内学習会で、これから見学する遺跡や出土品のことを予習しました。

ここで配付した「縄文ビンゴクイズ」全9問はツアー終了時に答え合わせをするので、ガイドさんの解説をよく聴きましょう。



● 大船遺跡見学



縄文時代の人たちは、どんな場所でどんな家に住んでいたのかな？まずは大船遺跡の展示館内で、遺跡全体の模型やパネルの解説を聞いて理解を深めました。その後は、参加者全員で大きな竪穴式住居跡や盛土遺構などを実際に見学しながら、当時の風景や生活の様子を想像してみました。

あいにくの天候でしたが、ガイドさんが解説する声は雨の音に負けることなく、参加者は熱心に耳を傾けていました。



● 函館市縄文文化交流センター見学

道の駅と併設された博物館・縄文文化交流センターでは、センター職員の解説を聴きながら、土器や弓矢、装飾品などの様々な出土品を見学し、縄文文化が世界中の他の文化と異なる特有のものを学習しました。薄暗い展示室で最後に待ち構えていたのは、北海道唯一の国宝



「中空土偶」！茅空（カックウ）の愛称で親しまれている中空土偶を目の前にして、参加者達はその精巧なつくりや文様構成に感嘆の声を上げながら、それぞれのスマホに姿を収めていました。

●ものづくり体験

センターの体験学習室において、縄文時代に使われていた土器のミニチュア版を参加者全員で作ってみました。最初は簡単そうに思えたけれど、実際に作ってみるとヒビ割れができたりして、なかなか難しかったようです。それでも、教えてくれるスタッフさんが一人一人に丁寧な指導をしてくださり、全員が自分なりの模様を付けてきれいに仕上げることができました。ツアー参加記念の良いお土産になりましたね。



●ツアーのまとめ

帰路のバス車内では「縄文ビンゴクイズ」の答え合わせを行いました。1問ずつ答えを発表するたびに、参加者からは「ビンゴ！」の声聞こえてきます。少し難しいクイズでしたが、参加者は一所懸命に取り組んでいたのも、とても勉強になったはずでした。

参加者アンケートでは、土器づくりが大ヒットだったようです。親子で楽しく参加できたこと、大変参考になる有意義な一日であったこと、機会があればまたツアーに参加したいなど、積極的な感想が多く寄せられました。

～～本ツアーは、渡島管内に存在する貴重な縄文遺跡について、児童・生徒が肌で感じる機会を通して、理解を深めてもらうことを目的として実施しました。

また、現在、道と道教委では「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産登録をめざし、縄文文化の認知促進を図るため様々な取組を進めておりますので、道民の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。～～